

## 鳥栖市の環境に関するアンケートの調査結果

## 実施概要と回収結果

- 調査対象 市民 760人  
鳥栖市内に本店・支店を置く事業所 300社（前回依頼時の事業所）
- 調査期間 平成28年6月上旬～7月中旬
- 調査方法 市民アンケートは囑託員による配布・回収  
事業所アンケートは郵送配布・郵送回収
- 回収結果：

	配布数	回収数	回収率
市民アンケート	760	690	90.8%
事業所アンケート	300	151	50.3%

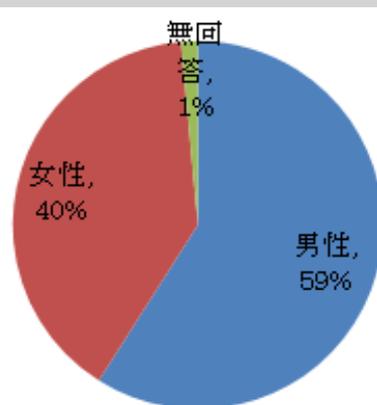
## 市民アンケート調査結果

## 回答者属性

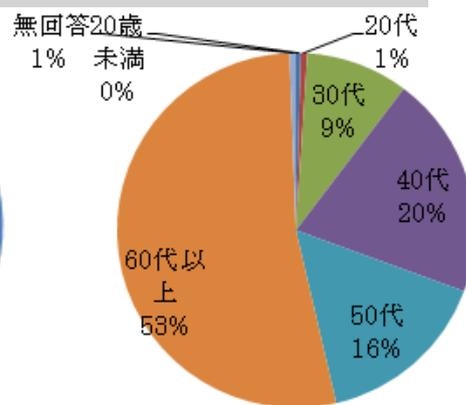
○回答者は男性が約59%、女性が約40%であり、年齢では、60代以上が約53%、50代が約16パーセント、40代が20%でした。

○住所（小学校区）は、鳥栖地区が20%、鳥栖北地区は14パーセントでした。

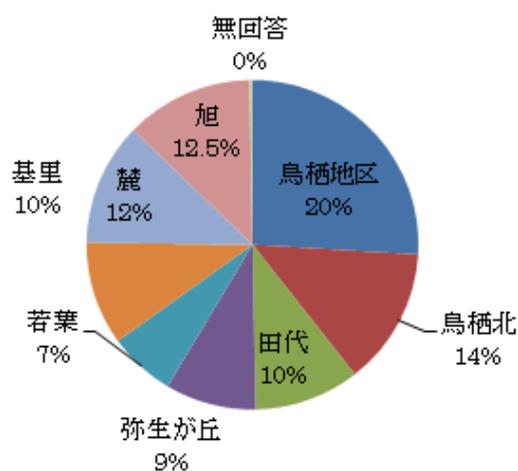
○鳥栖市の居住年数は30年以上が最も多く、6割を占めていました。ついで10～20年が15%、20～30年が10%でした。



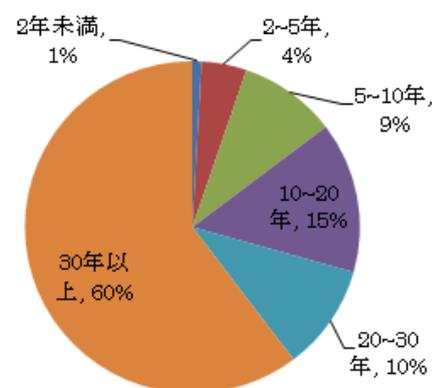
■性別



■年齢



■住所（小学校区）

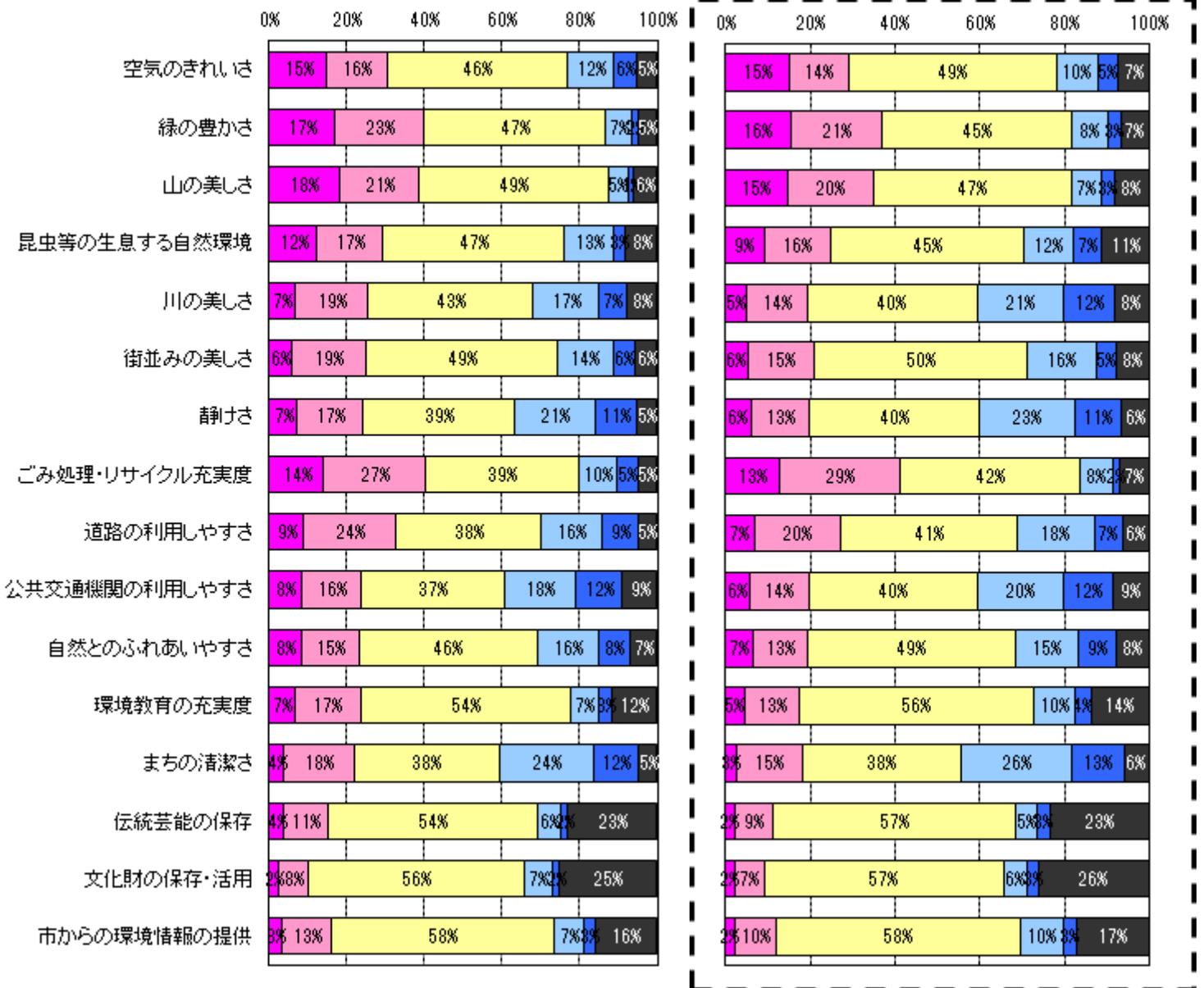


■居住年数

## いま現在の身近な環境の満足度

○いま現在の身近な環境の満足度を見てみると、「空気のきれいさ」、「緑の豊かさ」、「山の美しさ」、「ごみ処理・リサイクル充実度」の満足度が高かった一方で、「静けさ」、「道路の利用しやすさ」、「まちの清潔さ」といった項目の満足度が低い傾向でした。

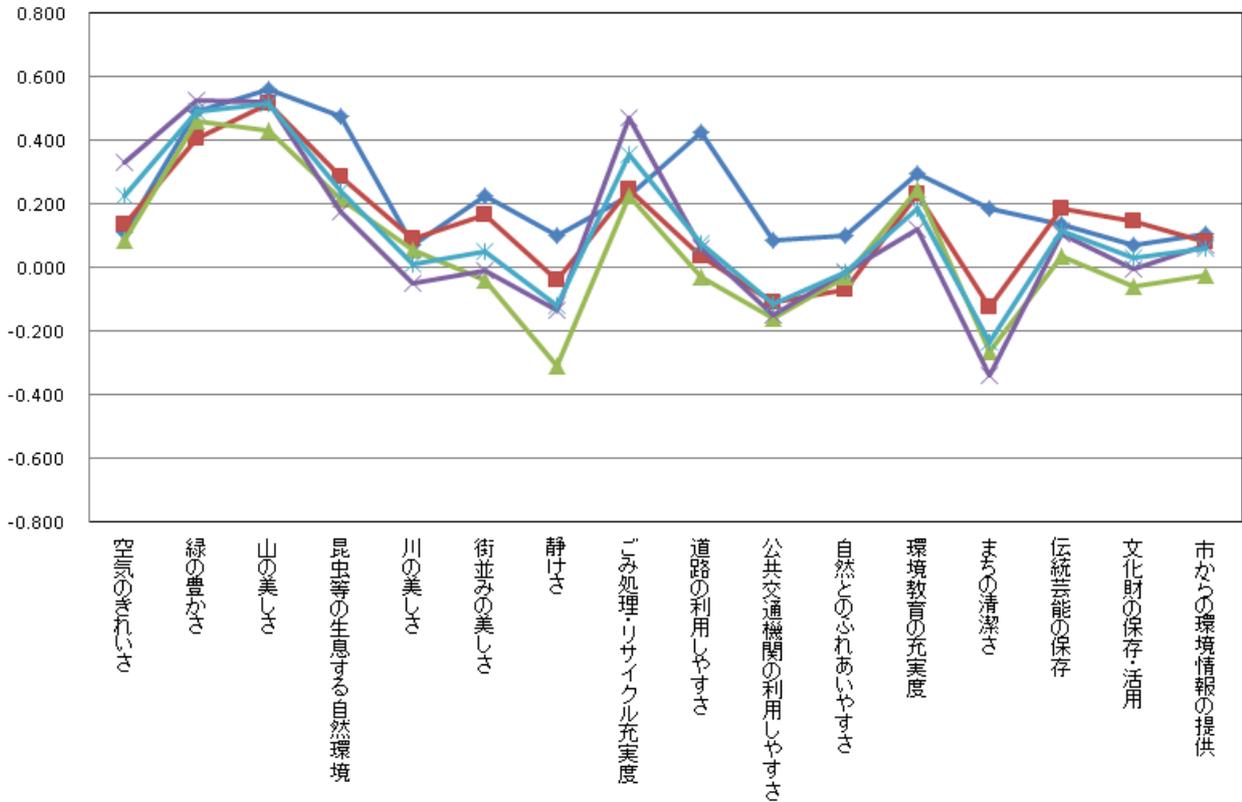
■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満 ■知らない・わからない・無回答



■ 現行計画策定時

○いま現在の身近な環境の満足度（いま現在）について、下記に示す方法で回答を得点換算しました。

＜配点＞ 満足＝2 やや満足＝1 普通＝0 やや不満＝－1 不満＝－2  
 30歳代以下 40歳代 50歳代 60歳代以上 全体  
 ＜スコア配点＞ 満足＝2点、やや満足＝1点、普通＝0点、やや不満＝－1点、不満＝－2



○年齢別で見ますと、満足度が高い項目は、全年齢で「山の美しさ」、「緑の豊かさ」でした。

逆に、満足度の低い項目は、30歳代以下では、「文化財の保存・活用」や「川の美しさ」、40歳代、50歳代、60歳代以上では「まちの清潔さ」や「静けさ」でした。

○「まちの清潔さ」や「静けさ」が不満に挙がった理由としては、鳥栖市の人口増加や開発の進行、また交通量の増加も考えられます。

		いま現在の身近な環境の満足度（上位3項目）		
		1	2	3
回答者の年齢	30歳代以下	山の美しさ	緑の豊かさ	昆虫等の生息する自然環境
	40歳代	山の美しさ	緑の豊かさ	昆虫等の生息する自然環境
	50歳代	緑の豊かさ	山の美しさ	環境教育の充実度
	60歳代以上	緑の豊かさ	山の美しさ	ごみ処理・リサイクル充実度
		いま現在の身近な環境の満足度（下位3項目）		
		1	2	3
回答者の年齢	30歳代以下	文化財の保存・活用	川の美しさ	公共交通機関の利用しやすさ
	40歳代	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ	自然とのふれあいやすさ
	50歳代	静けさ	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ
	60歳代以上	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ	静けさ

■いま現在の身近な環境の満足度（年齢別集計）

○居住地区別に見ますと、満足度が高い項目は「山の美しさ」、「緑の豊かさ」、「ごみ処理・リサイクル充実度」でした。満足度が低い項目は「まちの清潔さ」でした。

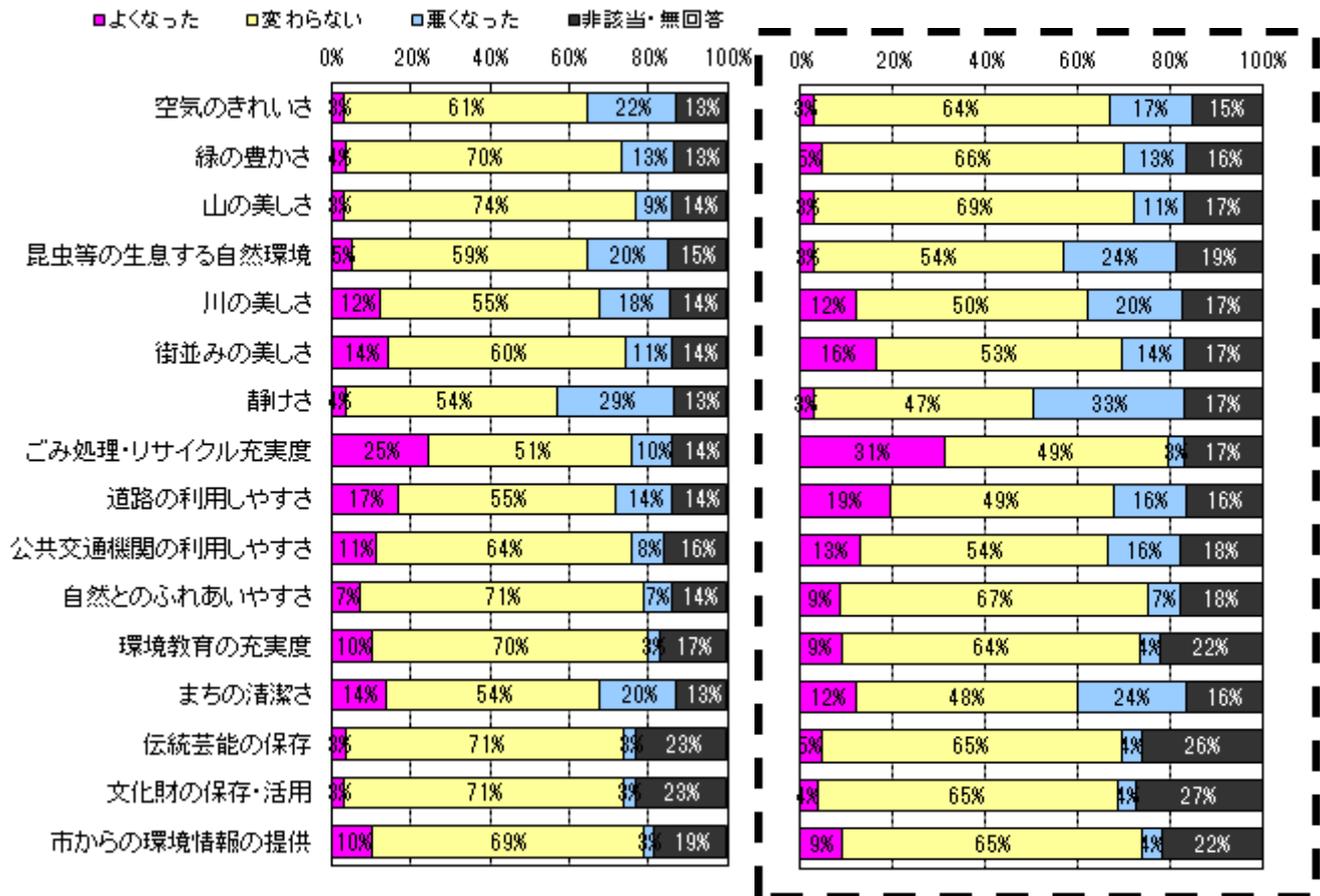
○「鳥栖」、「鳥栖北」、「田代」、「基里」地区では、「静けさ」に不満を感じています。理由は、交通量の多い、国道が通っているためや、既存の田畑が開発され、生活騒音に接する機会が増えたためだと考えられます。

		いま現在の身近な環境の満足度（上位3項目）		
		1	2	3
回答者の居住地区	鳥栖	ごみ処理・リサイクル充実度	緑の豊かさ	山の美しさ
	鳥栖北	山の美しさ	緑の豊かさ	空気のきれいさ
	田代	山の美しさ	緑の豊かさ	ごみ処理・リサイクル充実度
	弥生が丘	街並みの美しさ	緑の豊かさ	山の美しさ
	若葉	緑の豊かさ	山の美しさ	空気のきれいさ
	基里	山の美しさ	緑の豊かさ	ごみ処理・リサイクル充実度
	麓	緑の豊かさ	山の美しさ	ごみ処理・リサイクル充実度
	旭	山の美しさ	緑の豊かさ	ごみ処理・リサイクル充実度
		いま現在の身近な環境の満足度（下位3項目）		
		1	2	3
回答者の居住地区	鳥栖	まちの清潔さ	静けさ	川の美しさ
	鳥栖北	街並みの美しさ	静けさ	川の美しさ
	田代	公共交通機関の利用しやすさ	静けさ	まちの清潔さ
	弥生が丘	まちの清潔さ	文化財の保存・活用	公共交通機関の利用しやすさ
	若葉	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ	文化財の保存・活用
	基里	静けさ	まちの清潔さ	自然とのふれあいやすさ
	麓	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ	静けさ
	旭	まちの清潔さ	公共交通機関の利用しやすさ	自然とのふれあいやすさ

■いま現在の身近な環境の満足度（居住地区別集計）

## 5年前と比べての身近な環境の満足度

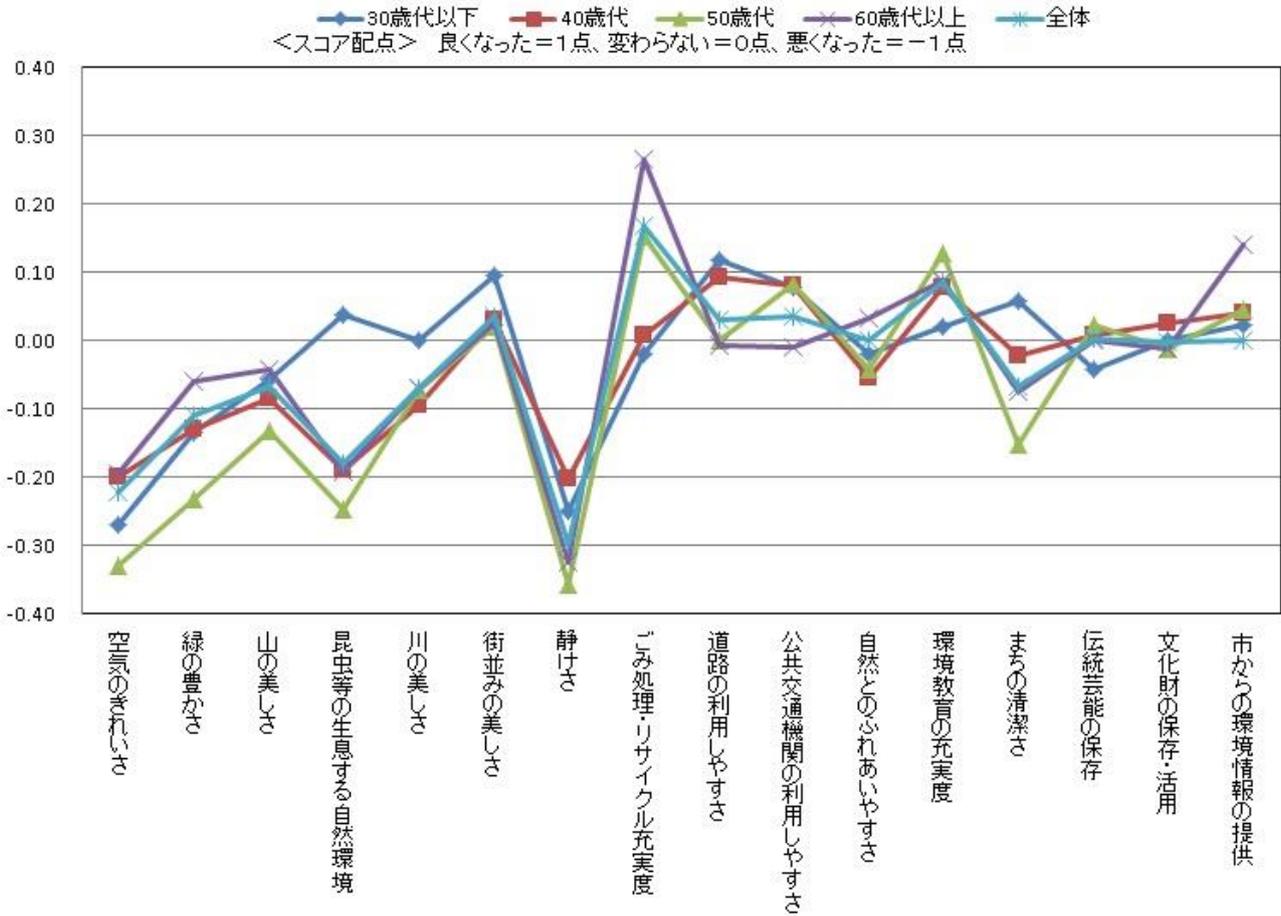
○5年前と比べての身近な環境の満足度は、「静けさ」と「昆虫等の生息する自然環境」、「まちの清潔さ」に対して「悪くなった」と評価の割合が多いです。



■ 現行計画策定時

○身近な環境の満足度（5年前と比べて）について、下記に示す方法で回答を得点換算しました。

<配点> よくなった=1 普通=0 悪くなった=-1



○年齢別で見ますと、「道路の利用しやすさ」、「環境教育の充実度」、「ごみ処理・リサイクル充実度」は良くなったと感じる人が多い一方で、すべての年代で「空気きれいさ」、「静けさ」が悪くなったと感じる人が多くいました。

○理由と考えられるのは、5年前と比べ、PM2.5などの大気汚染の原因になる言葉を耳に触れる機会が増えたこと、また、鳥栖市の人口増加やそれに伴う開発の進行、また交通量の増加があります。

		5年前と比べての身近な環境の満足度（上位3項目）		
		1	2	3
回答者の年齢	30歳代以下	道路の利用しやすさ	街並みの美しさ	公共交通機関の利用しやすさ
	40歳代	道路の利用しやすさ	公共交通機関の利用しやすさ	環境教育の充実度
	50歳代	環境教育の充実度	公共交通機関の利用しやすさ	ごみ処理・リサイクル充実度
	60歳代以上	ごみ処理・リサイクル充実度	市からの環境情報の提供	環境教育の充実度

		5年前と比べての身近な環境の満足度（下位3項目）		
		1	2	3
回答者の年齢	30歳代以下	空気のきれいさ	静けさ	緑の豊かさ
	40歳代	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	50歳代	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	60歳代以上	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境

■ 5年前と比べての身近な環境の満足度（年齢別集計）

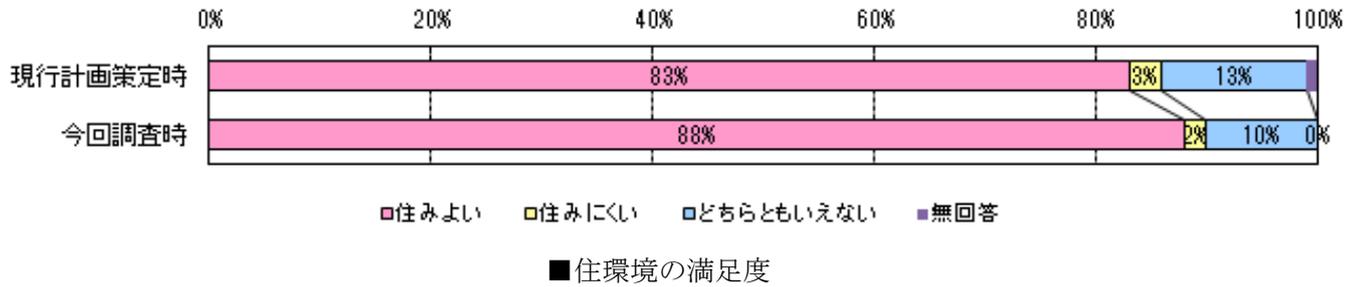
○ 5年前と比べていま現在の身近な環境の満足度を、地区別で集計した所、年齢別集計と同様の結果になっています。

		5年前と比べていま現在の身近な環境の満足度（上位3項目）		
		1	2	3
回答者の居住地区	鳥栖	ごみ処理・リサイクル充実度	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供（2位と同率）
	鳥栖北	自然とのふれあいやすさ	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供（2位と同率）
	田代	自然とのふれあいやすさ	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供（2位と同率）
	弥生が丘	街並みの美しさ	道路の利用しやすさ	自然とのふれあいやすさ
	若葉	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供	道路の利用しやすさ
	基里	ごみ処理・リサイクル充実度	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供（2位と同率）
	麓	ごみ処理・リサイクル充実度	文化財の保存・活用	市からの環境情報の提供（2位と同率）
	旭	ごみ処理・リサイクル充実度	自然とのふれあいやすさ	街並みの美しさ
		5年前と比べていま現在の身近な環境の満足度（下位3項目）		
		1	2	3
回答者の居住地区	鳥栖	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	鳥栖北	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	田代	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境	静けさ
	弥生が丘	静けさ	空気のきれいさ	環境教育の充実度（2位と同率）
	若葉	静けさ	環境教育の充実度	昆虫等の生息する自然環境
	基里	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	麓	静けさ	空気のきれいさ	昆虫等の生息する自然環境
	旭	静けさ	昆虫等の生息する自然環境	空気のきれいさ

■ 5年前と比べての身近な環境の満足度（地区別集計）

## 住環境の満足度

○鳥栖市の住環境の満足度では、現行計画策定時と比べて、「住みよい」の割合が増加しました。



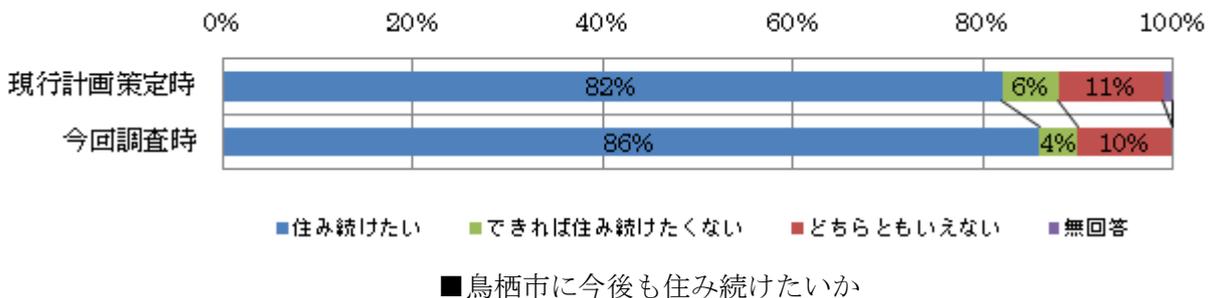
○次に、住みよいを選択した人の理由では、50歳代以下では、「交通が便利」を一番に挙げる人が多かったのですが、60歳代以上では、「災害が少ない」を挙げる人が多くいました。

○全体的には、災害が少ない、交通が便利、生活環境がよいの3つがすべての年代で上位に上がりました。

		鳥栖市のすみよい理由（上位3項目）		
		1	2	3
回答者の年齢	30歳代以下	交通が便利	生活環境がよい	災害が少ない
	40歳代	交通が便利	生活環境がよい	災害が少ない
	50歳代	交通が便利	災害が少ない	生活環境がよい
	60歳代以上	災害が少ない	交通が便利	生活環境がよい

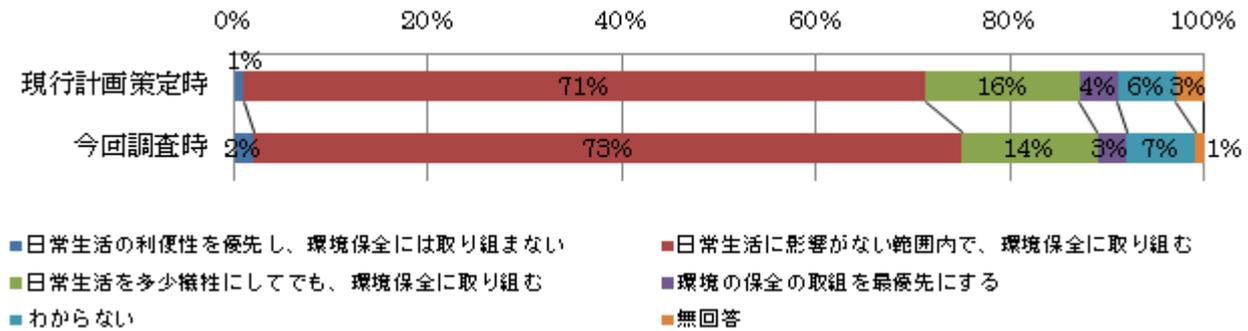
■住環境を住みよいとした理由（年齢別集計）

○今後も鳥栖市に住み続けたいと回答した割合も、前回調査時から増加しています。



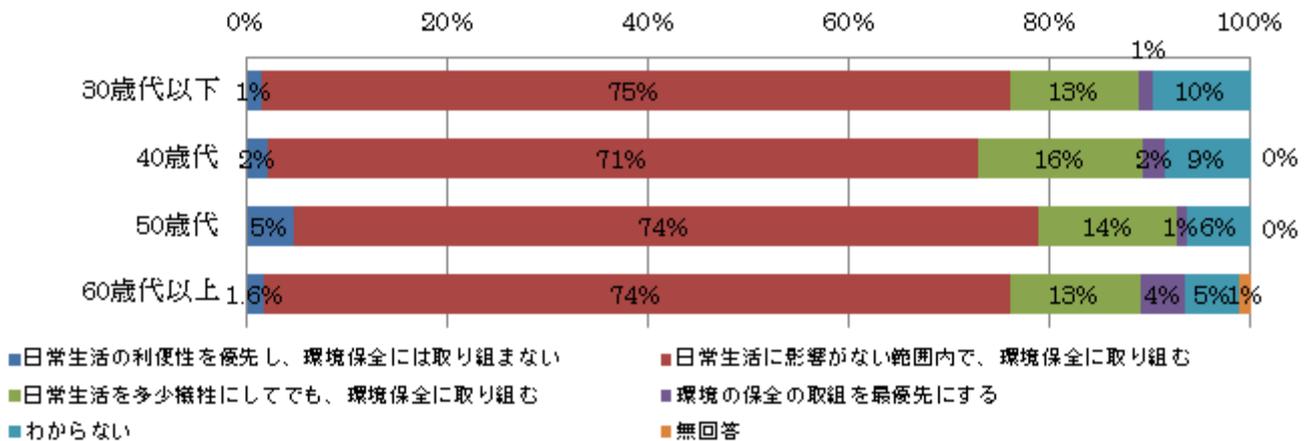
## 日常生活における環境保全の取組

○日常生活の利便性と環境保全のどちらを優先するか意識を調べたところ、前回調査時と比べ、わずかですが、日常生活より環境保全を優先する人が減っています。



■ 日常生活の利便性と環境保全の取組優先意識

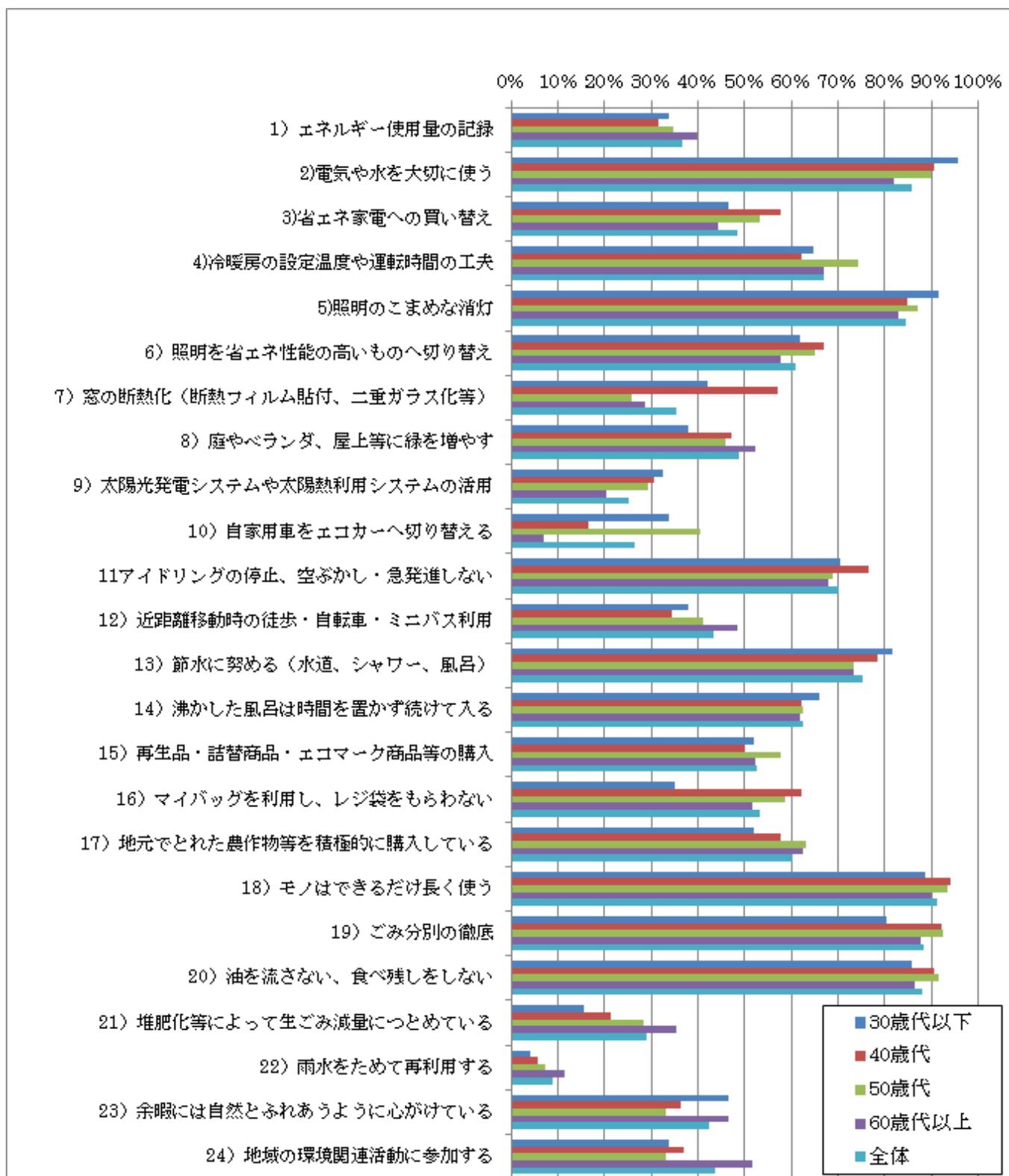
○年代別で意識を見ても、概ね割合は同じでした。



■ 日常生活の利便性と環境保全の取組優先意識（年代別）

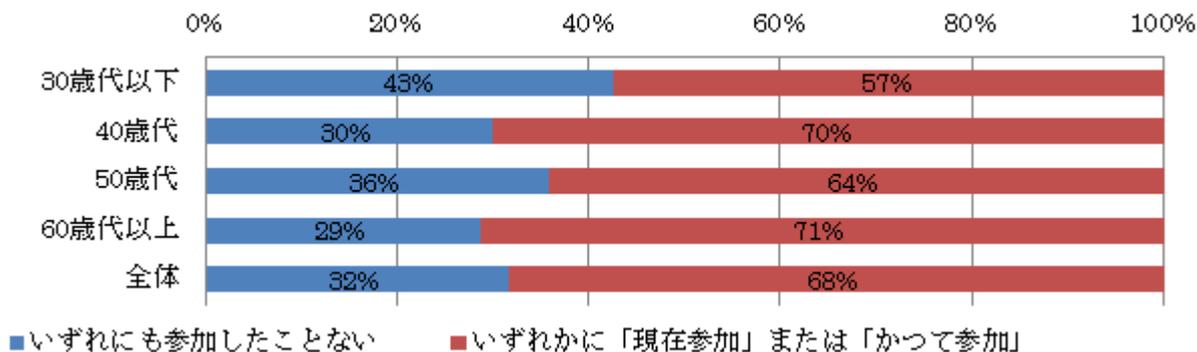
○また、日常生活の中で行っている環境保全の取組では、40歳代以上では「モノはできるだけ長く使う」、「ごみ分別の徹底」をしている人が多いですが、30歳代以下では「電気や水を大切に使う」ことが一番に挙げられました。

○逆に日常生活の中で行っていない環境保全の取組では、「堆肥化等によって生ごみ減量につとめている」や「自家用車をエコカーへ切り替える」という項目が挙げられました。



## 環境保全活動への参加

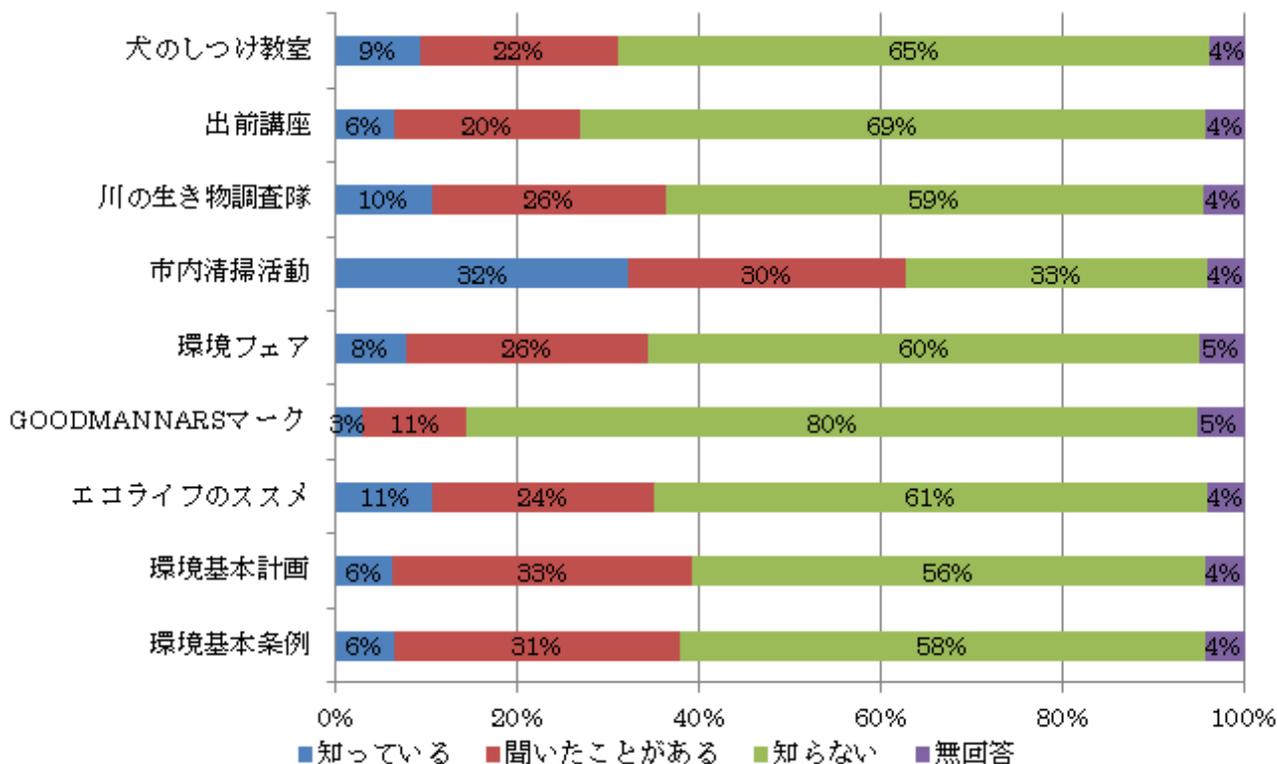
○環境保全活動（地域の清掃・美化活動、河川の環境）に参加したことがあるかどうかを調べたところ、全体で約7割近くの方が、環境保全活動のいずれかに「現在参加」または「かつて参加」していました。



■日常生活の中で行っている環境保全の取組（下位3項目）

## 市が行う取り組みの認知度

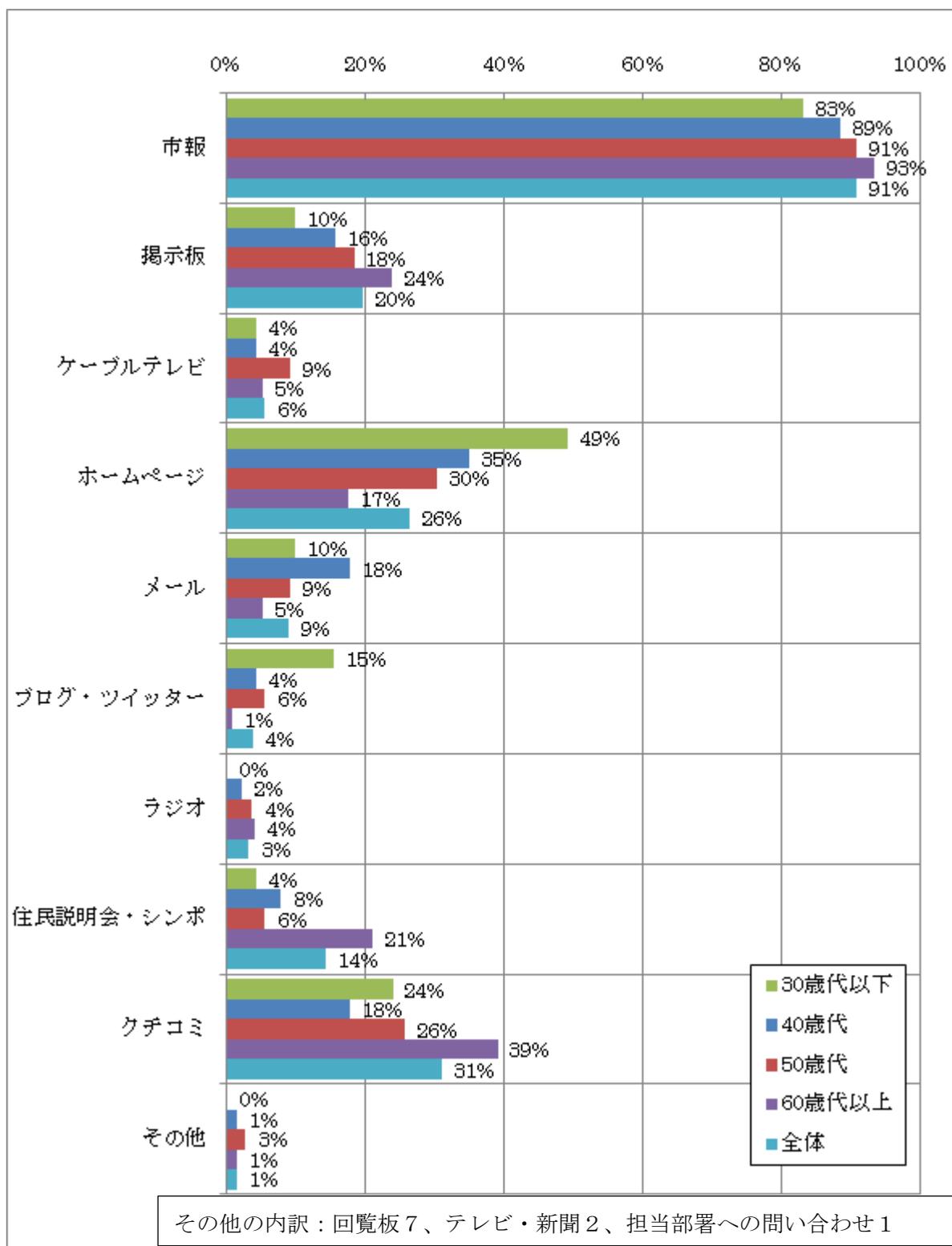
○市が行っている取組では、唯一、市内清掃活動の認知度は約6割ありました。それ以外の取組については、全て4割を下回っています。



■市の取組の認知度

## 市の環境情報の入手媒体

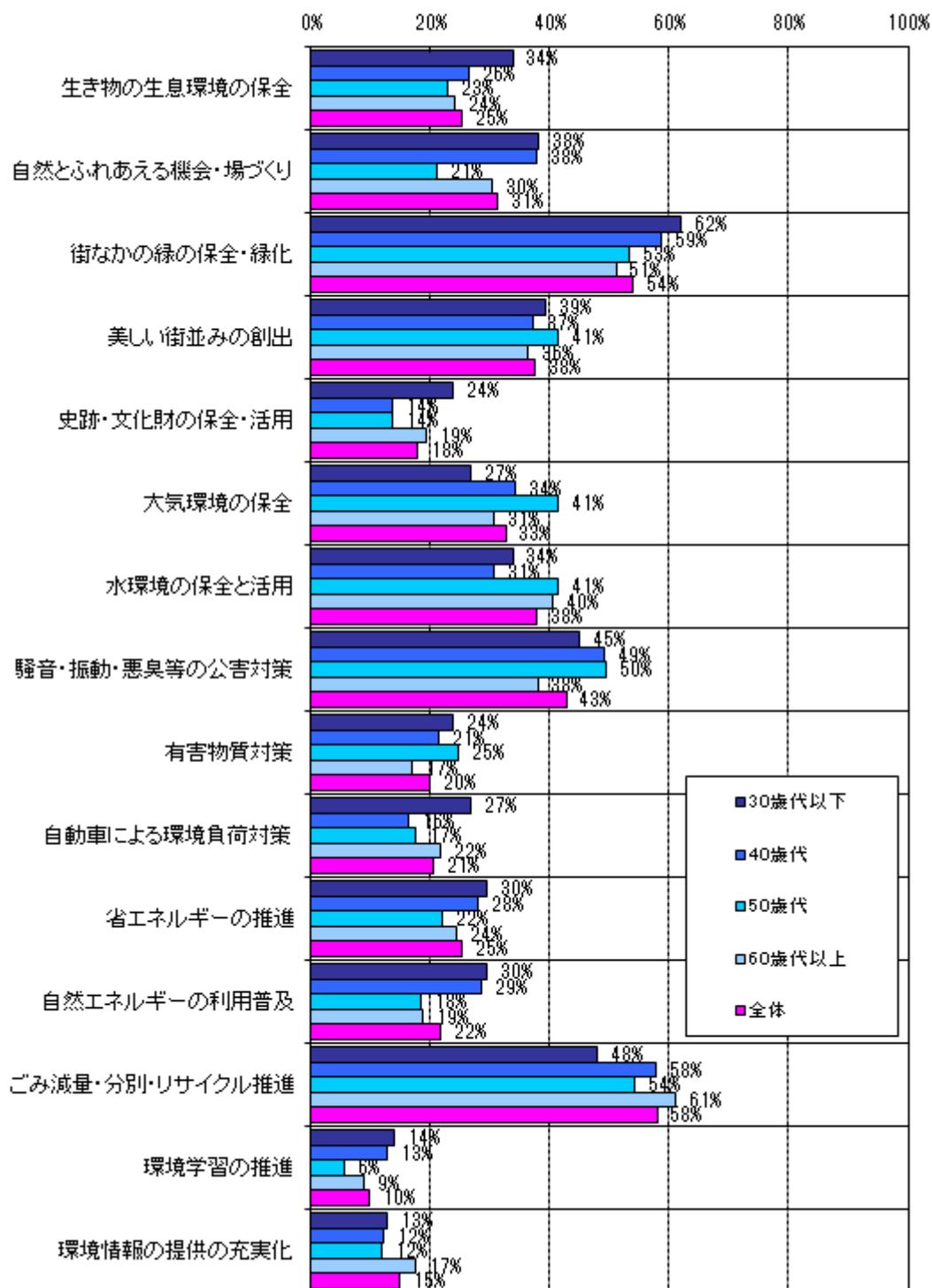
〇市からの環境情報を入手するときには、「市報」が全ての年代から一番好まれる媒体でした。また「クチコミ」や「ホームページ」からも情報を入手する媒体として一定の支持がありました。



■環境情報を得るのに利用しやすい媒体

## 特に重要と思う環境政策

○特に重要と思う環境政策については、「ごみ減量・分別・リサイクル推進」を重要だと考える人が一番多くいました。「街なかの緑の保全・緑化」、「騒音・振動・悪臭等の公害対策」がそれに続いています。



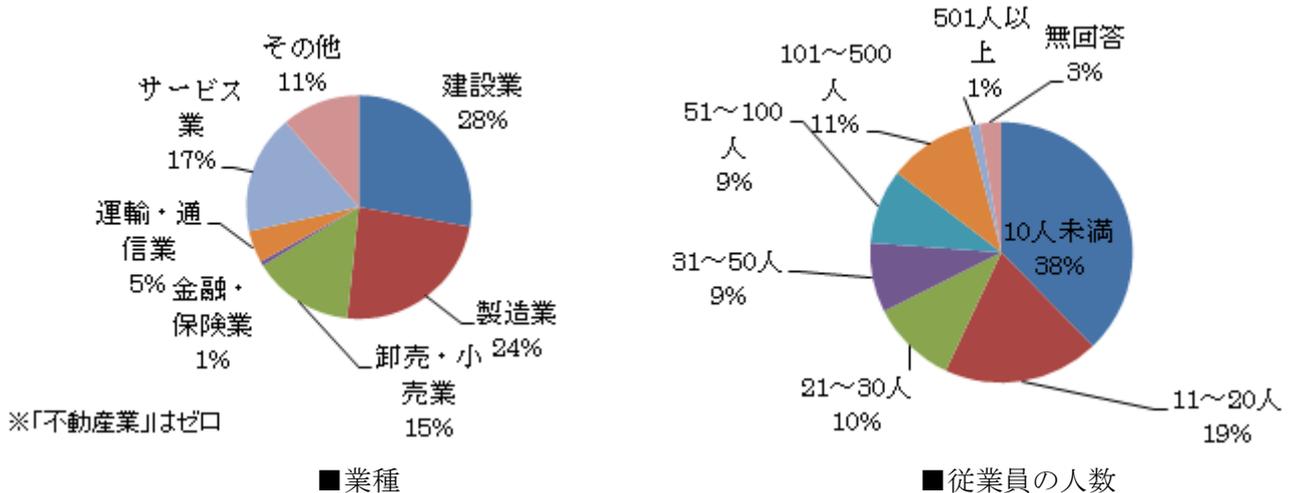
■ 今後、特に重要だと考える環境政策

## 事業所アンケート調査結果

### 回答事業所の属性

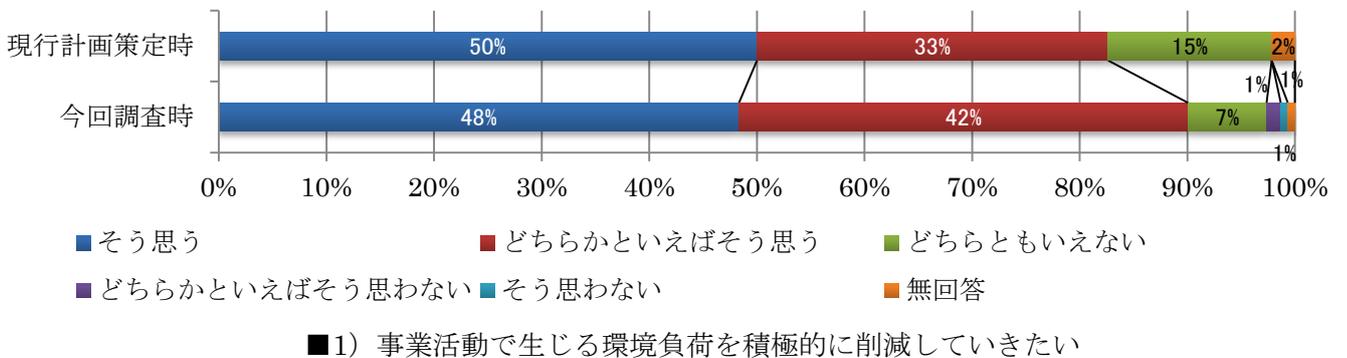
○業種では「建設業」が最も多く、次いで「製造業」、「サービス業」となった。

○また、従業員数は「10人未満」が一番多く、次いで「11～20人」が多く、アンケート回答者の過半数を小規模な事業所が占める結果となりました。

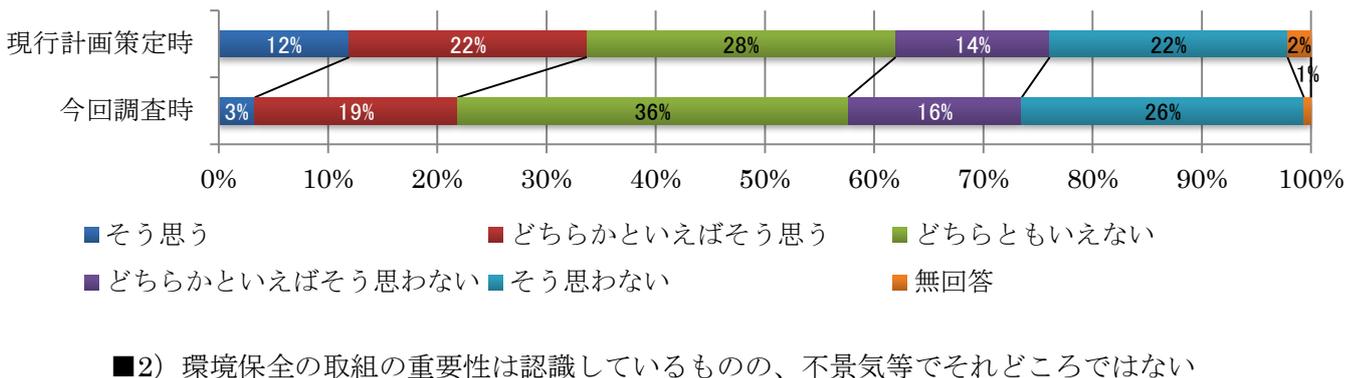


### 環境保全に対する認識

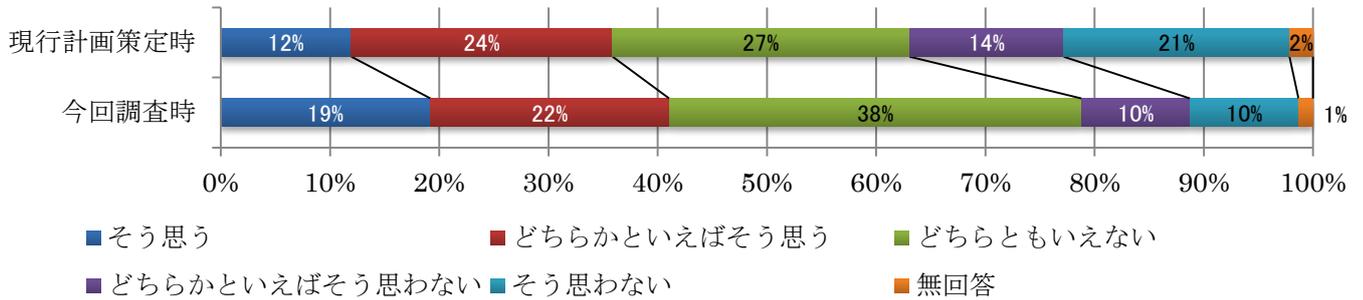
○事業所の環境保全に対する認識を調査したところ、「1) 事業活動で生じる環境負荷を積極的に削減していきたい」は90%の事業所が肯定的でした。



○「2) 環境保全の取組の重要性は認識しているものの、不景気等でそれどころではない」で、肯定的な事業所は前回より減少しています。

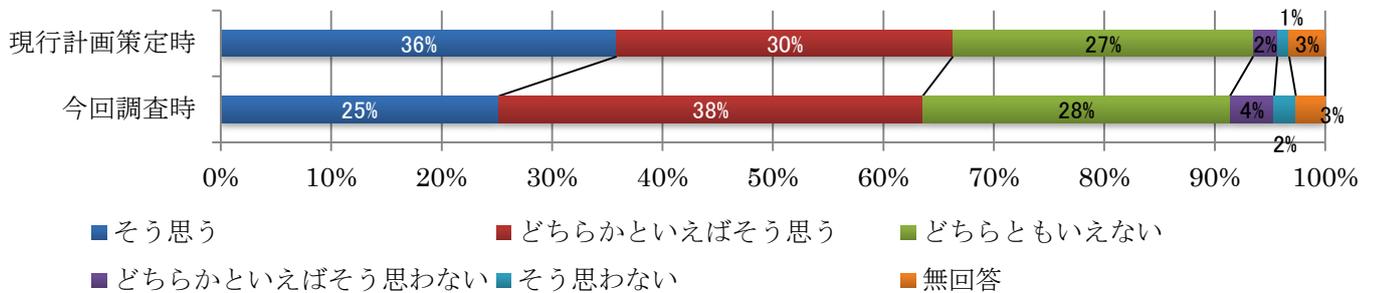


○「3）環境保全の取組を行うほどの環境影響を与えていない」と認識している事業所は増えていきます。



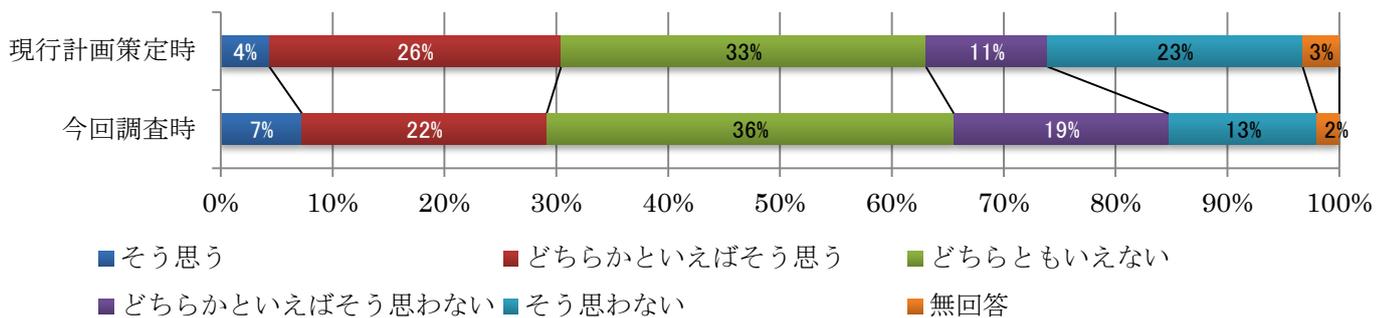
■3) 環境保全の取組を行うほどの環境影響を与えていない

○「4）環境に配慮した製品やサービスを開発・提供し、環境保全と事業活動の拡大を両立したい」に肯定的な事業所の割合は減少しています。



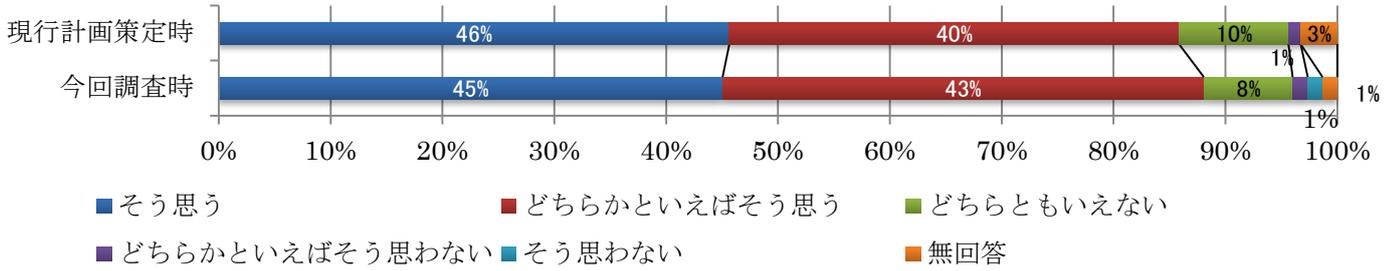
■4) 環境に配慮した製品やサービスを開発・提供し、環境保全と事業活動の拡大を両立したい

○「5）環境保全の取組は利益追求と相容れないため、法律等で定められた義務・基準等を遵守するのみにとどめる」の割合は前回と同程度の割合でした。



■5) 環境保全の取組は利益追求と相容れないため、法律等で定められた義務・基準等を遵守するのみにとどめる

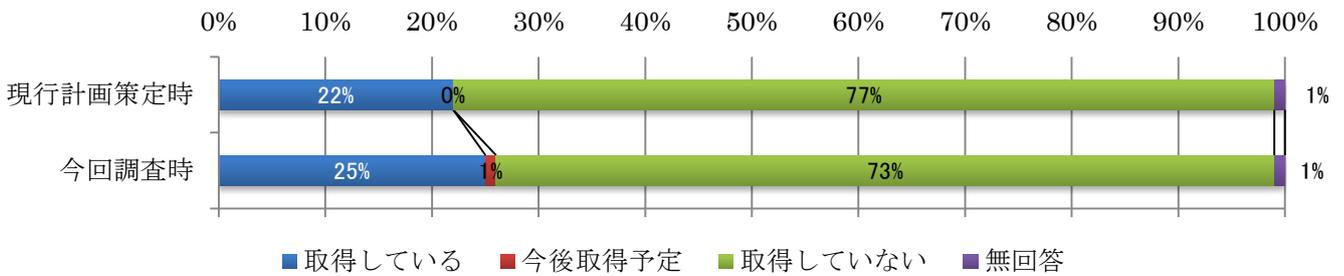
○「6）事業所は（事業活動の大小にかかわらず）地域の環境保全に貢献すべきである」に肯定的な事業所は増えています。



■6）事業者は（事業活動の大小にかかわらず）地域の環境保全に貢献すべきである

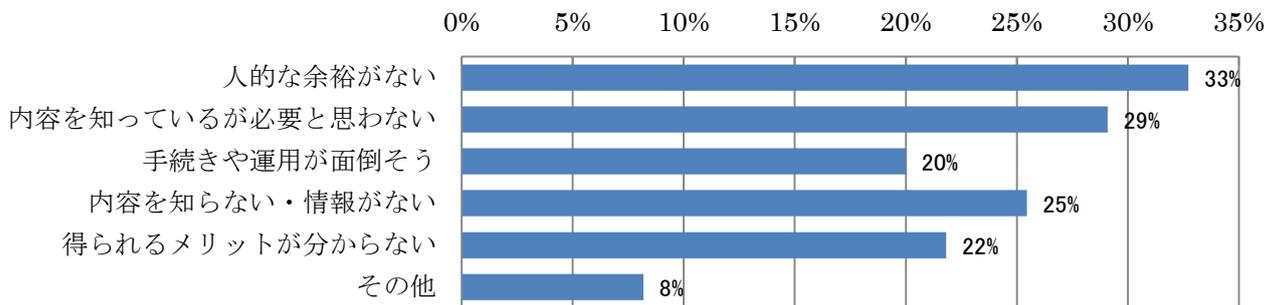
### 環境マネジメントシステムについて

○ISO14001 やエコアクション2.1等の環境マネジメントシステムの取得事業所の割合は、前回より増加しています。



■環境マネジメントシステムの取得

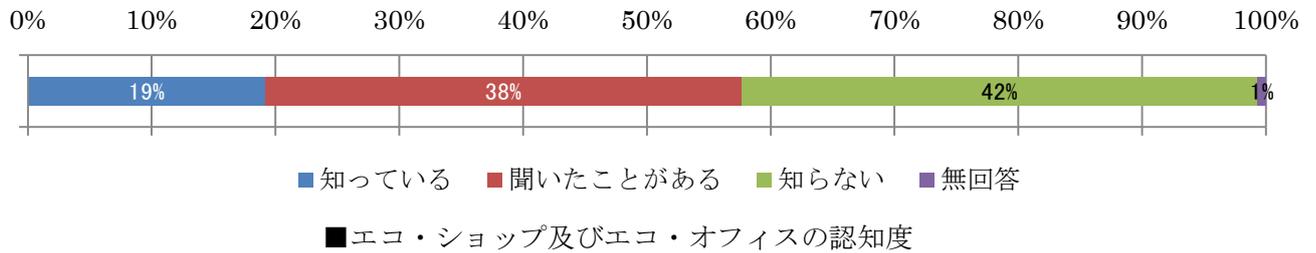
○また、環境マネジメントシステムを「取得していない」事業所に取得していない理由を聞いたところ、「人的な余裕がない」、「内容を知っているが必要と思わない」の理由を挙げられました。



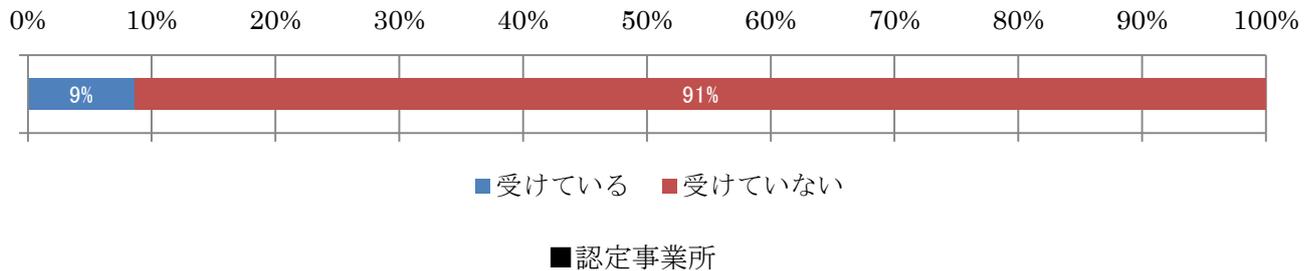
■環境マネジメントシステムを取得していない理由

## 鳥栖市のエコ・ショップ及びエコ・オフィスについて

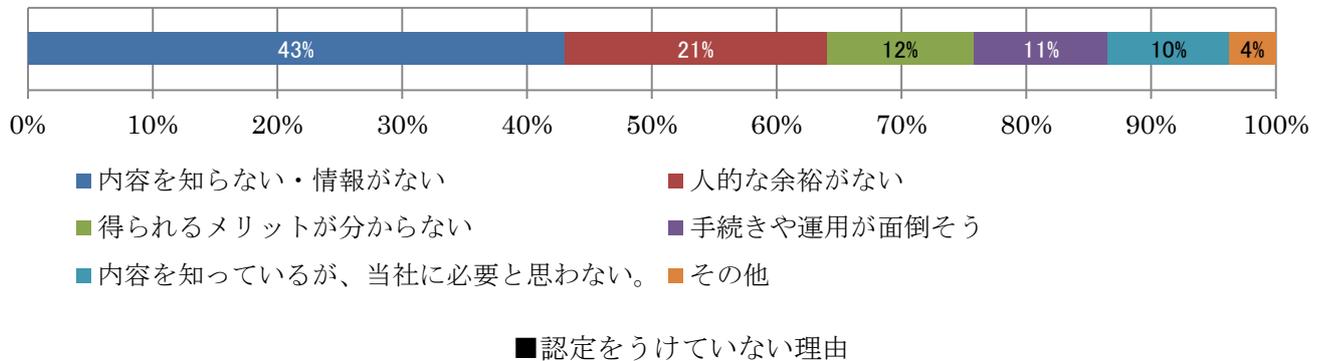
○環境保全活動に積極的な事業所をエコ・ショップ及びエコ・オフィスとして認定する、鳥栖市エコ・ショップ及びエコ・オフィス推奨制度について尋ねたところ、認知度は5割を超えていました。



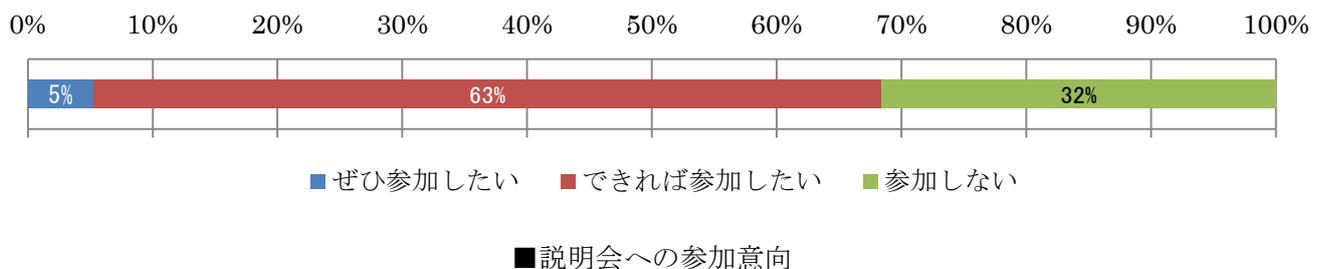
○認定を受けている事業所は約1割でした。



○認定を受けていない事業所に、受けていない理由を尋ねたところ、「内容を知らない・情報がない」、「人的な余裕がない」、「得られるメリットがわからない」が挙がりました。

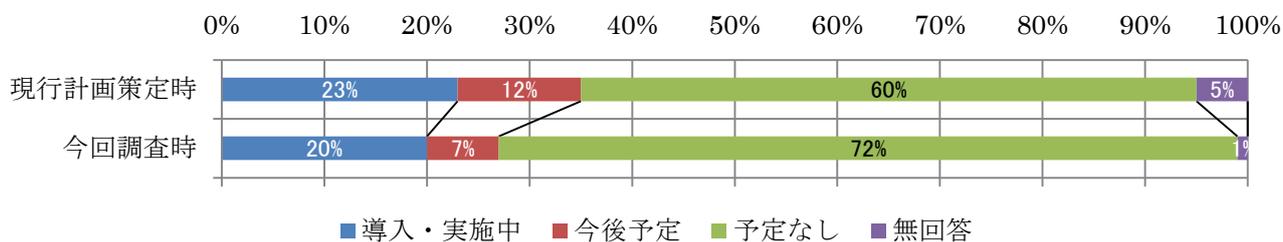


○認定を受けていない事業所に、エコ・ショップ及びエコ・オフィスの説明会の参加意向を尋ねたところ、7割近くの事業所が参加に意欲的でした。

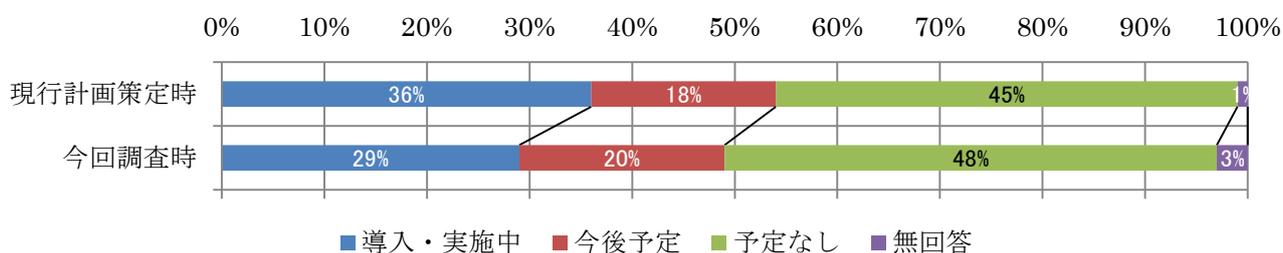


## 環境保全のための組織体制や、環境情報の収集・公表について

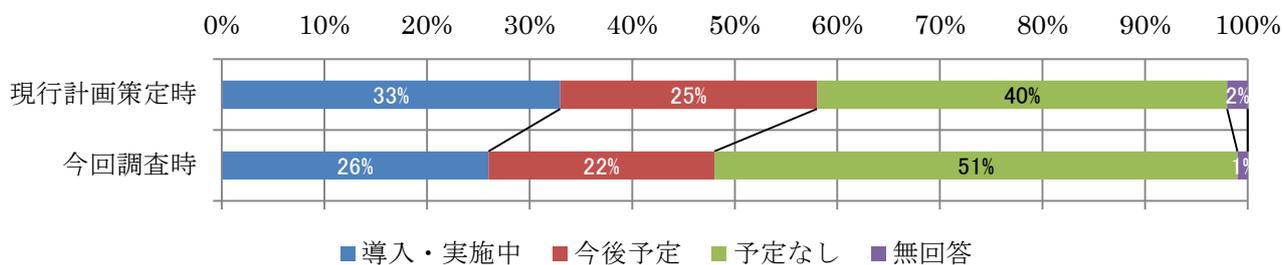
○環境保全のための組織体制や、環境情報の収集・公表は、全体的に見て、前回よりも消極的となっています。



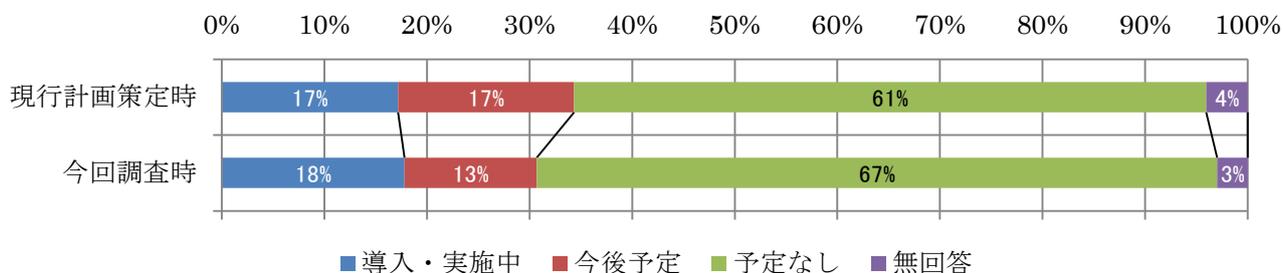
### ■1) 事業活動における環境管理や、地域の環境活動への協力を担当する部署・人員を配置する



### ■2) 従業員への環境教育を行う



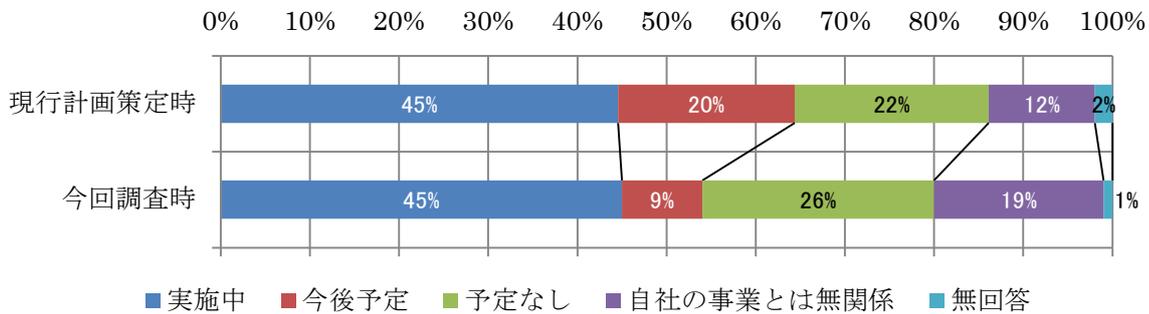
### ■3) 当社の事業活動や顧客（消費者・取引先等）の環境負荷削減に役立つ情報を収集する



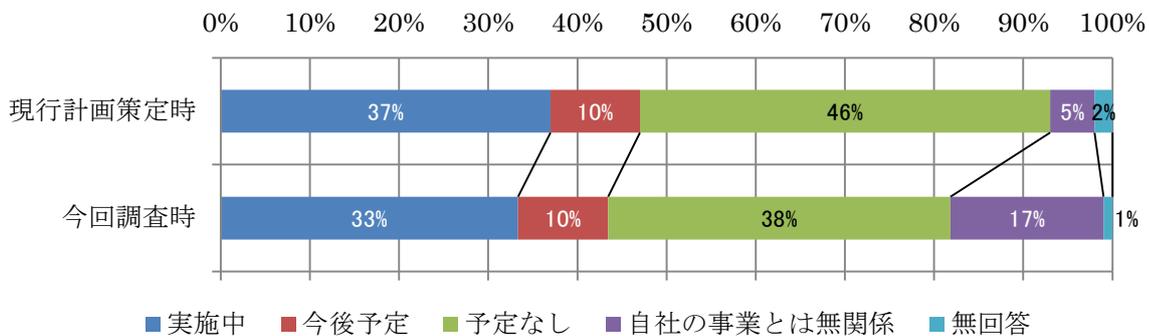
### ■4) 当社の環境保全の取組に関する情報を公表する（環境報告書作成、環境データ開示、事務所・店舗店内での掲示等）

## 自然環境や生活環境への配慮について

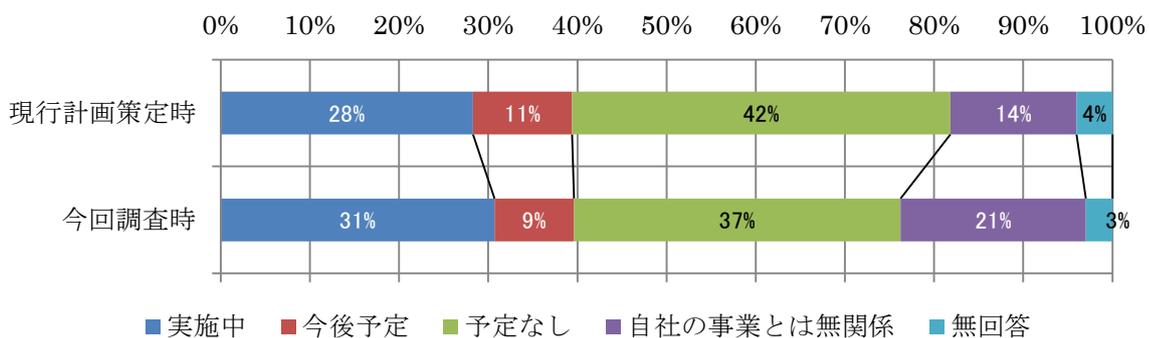
○事業活動において、周辺の自然環境や生活環境の配慮については、前回と同程度の割合か、前回から減少しています。



■1) 事業活動によって生じる環境負荷（排気ガス、排水、騒音・振動、悪臭等）について、法令等で求められる水準以上の低減努力をする



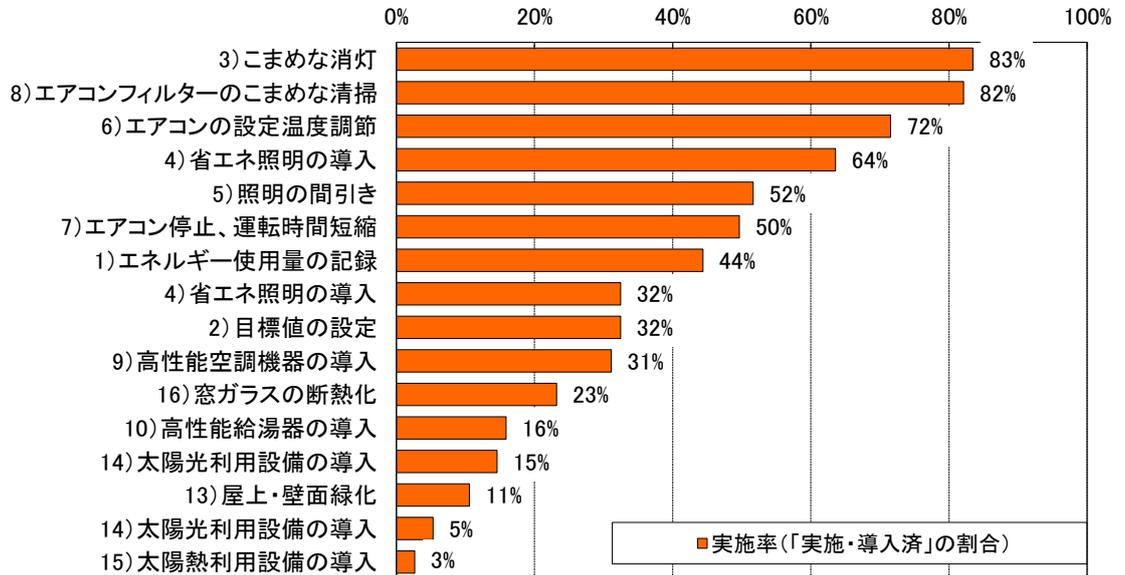
■2) 事業所敷地内に緑地や自然地を多く確保する



■3) 建物や広告塔等を景観に配慮したものになっている（高さ・色彩等）

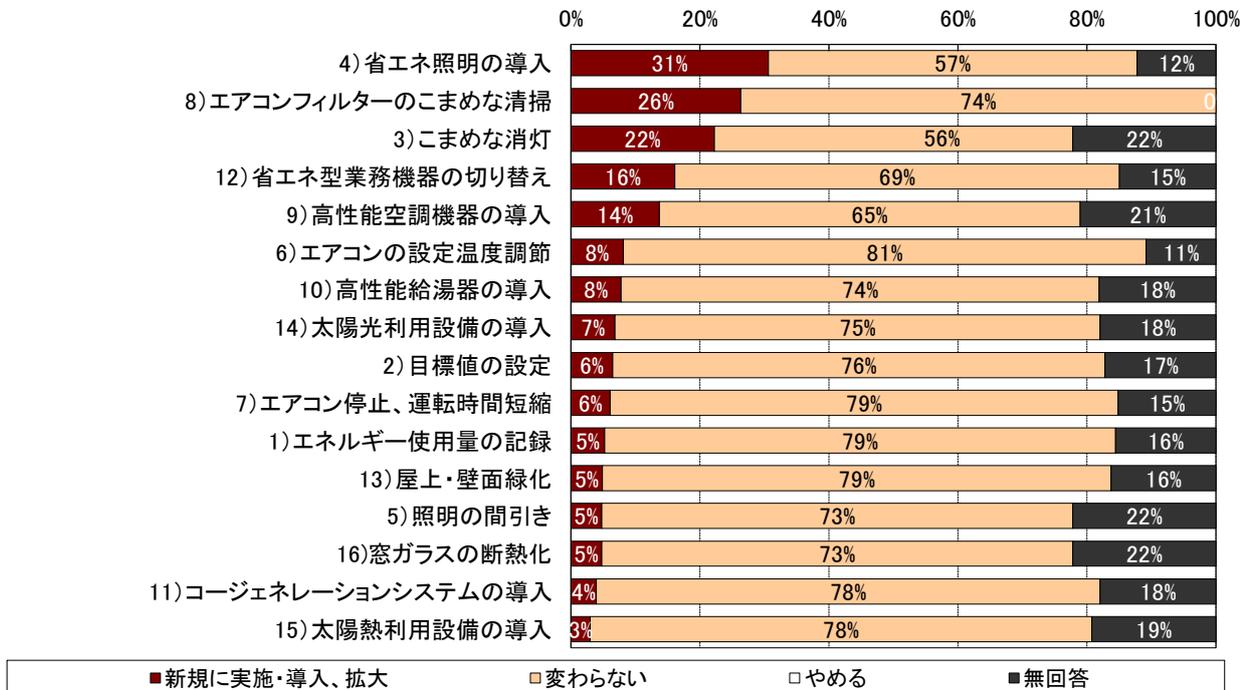
## 事業活動における省エネ・CO2削減の取組について

○事業活動の中で、現在行っている省エネ・CO2削減の取組は、「こまめな消灯」を実施している事業所が一番多く、次いで「エアコンフィルターのこまめな清掃」、「エアコンの設定温度調節」でした。



### ■事業活動における省エネ・CO2削減の取組 (現在)

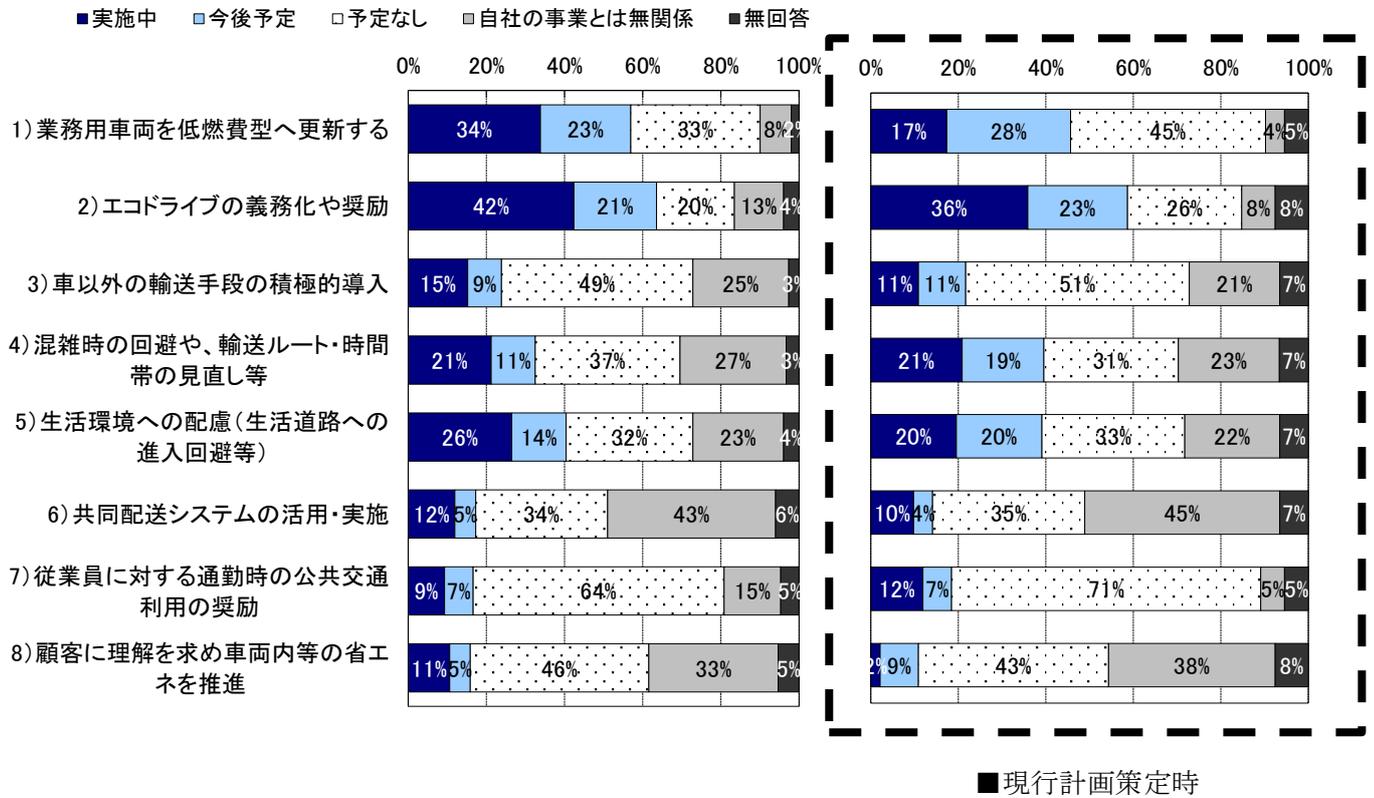
○今後、実施したい省エネ・CO2削減の取組では、「省エネ照明の導入」が一番に挙がりました。



### ■事業活動における省エネ・CO2削減の取組 (将来)

## 車利用に関する取り組みについて

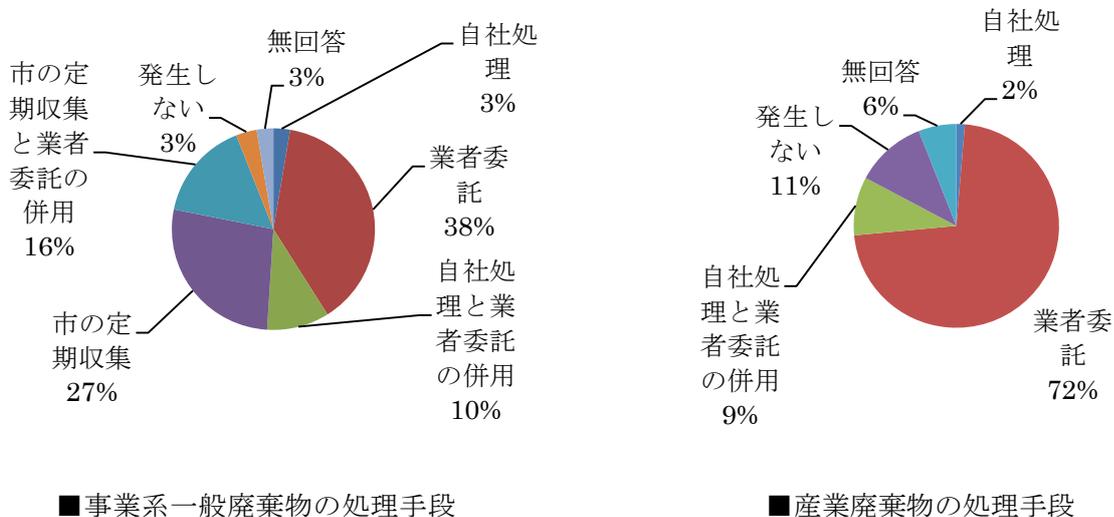
○事業所の車利用に関する環境保全の取組では、現行計画策定時と比べ、取り組みに肯定的な事業所が全体的に増えています。



## 原料調達や、廃棄物/リサイクルの取組について

○事業系一般廃棄物・産業廃棄物の処理では、事業系一般廃棄物は「業者委託」で処理する事業所が一番多く、次いで「市の定期収集」でした。

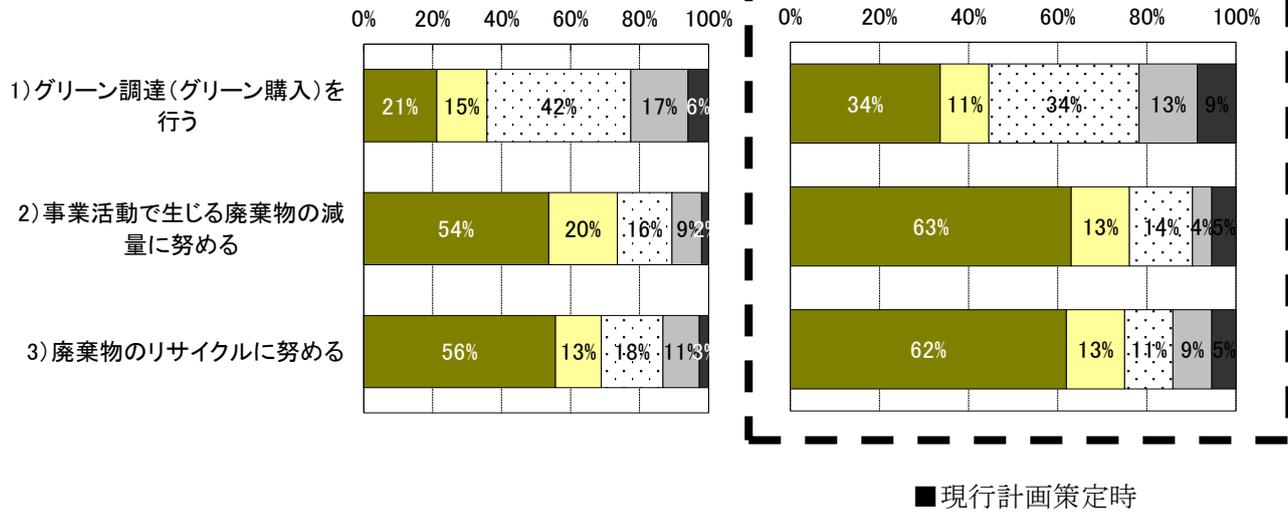
○産業廃棄物は「業者委託」で処理する事業所が7割を超えていました。



## 原料調達や廃棄物・リサイクルの取組

○原料調達や廃棄物・リサイクルの取組は、現行計画策定時と比べ全体的に消極的になっています。

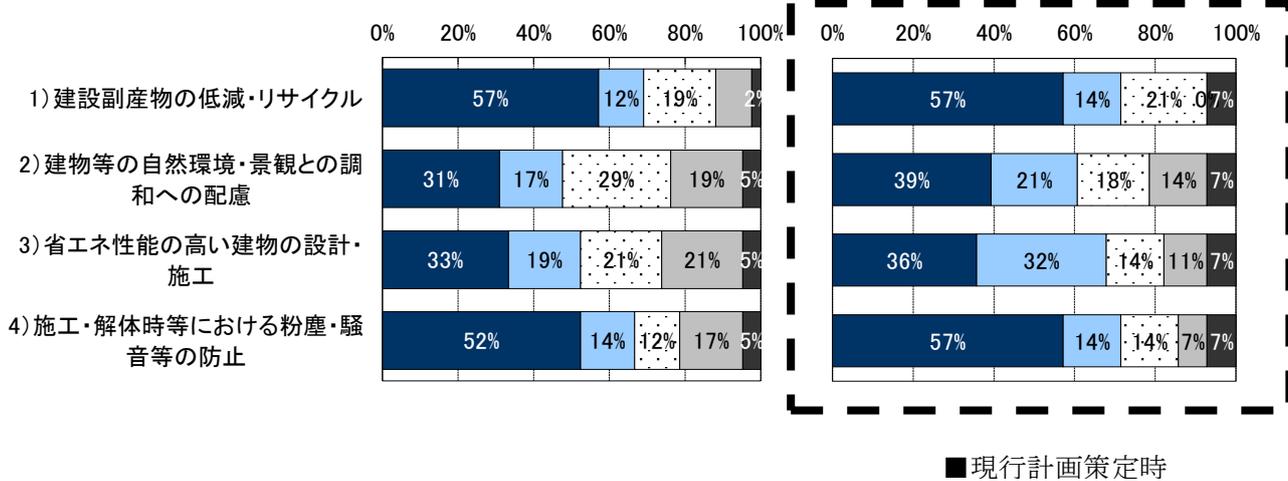
■実施中 ■今後予定 □予定なし □自社の事業とは無関係 ■無回答



## 事業活動を通じた環境保全の取組（建設業のみ）

○建設業を対象にした環境保全の取組では、現行計画策定時と比べ、消極的になっています。

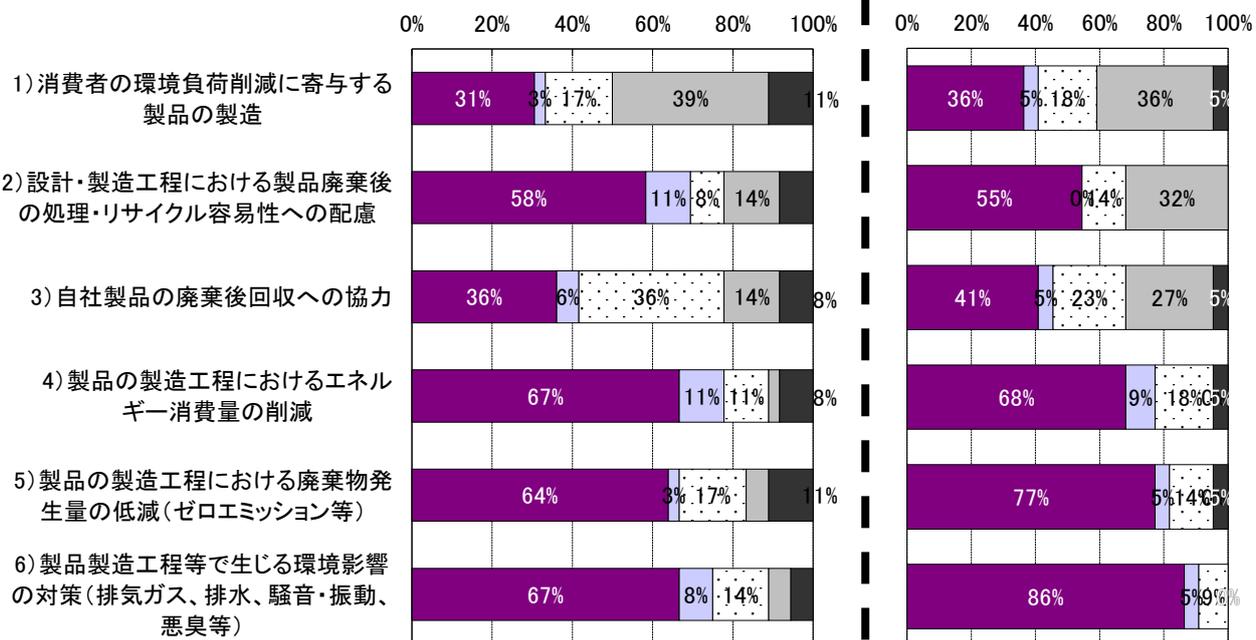
■実施中 ■今後予定 □予定なし □自社の事業とは無関係 ■無回答



## 事業活動を通じた環境保全の取組（製造業のみ）

○製造業を対象にした環境保全の取組では、現行計画策定時と比べ、消極的な割合が増えています。

■実施中 ■今後予定 □予定なし ■自社の事業とは無関係 ■無回答

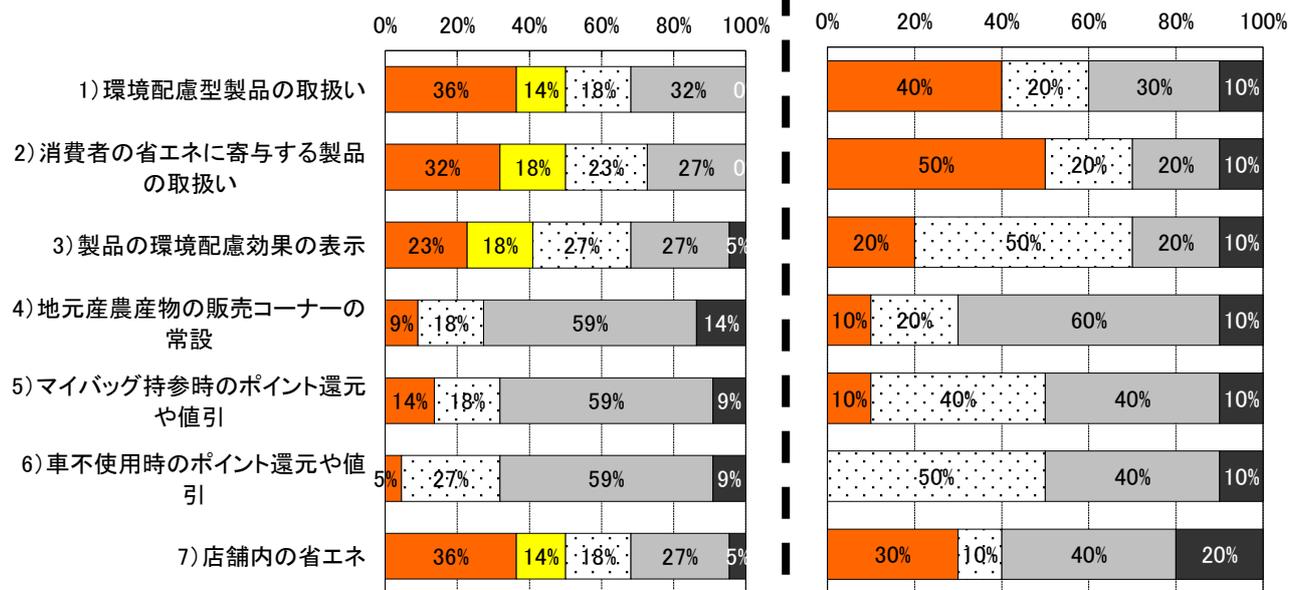


■現行計画策定時

## 事業活動を通じた環境保全の取組（卸売・小売業）

○卸売・小売業を対象にした環境保全の取組では、現行計画策定時と比べ、店舗内の省エネの割合が増えています。

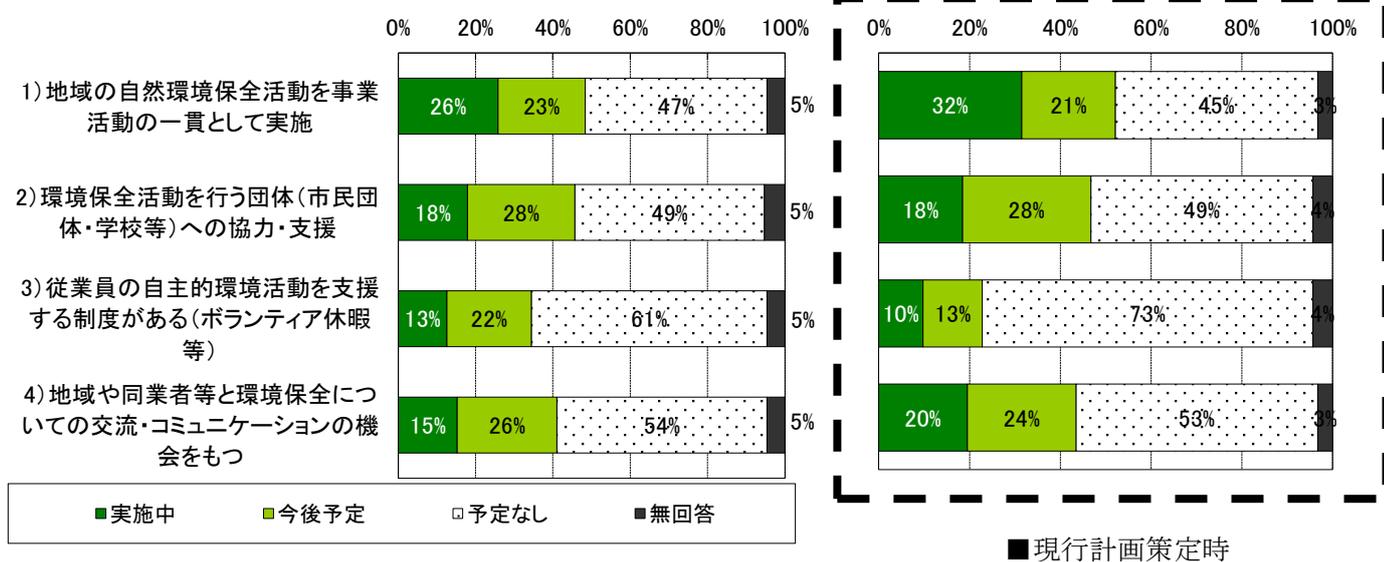
■実施中 ■今後予定 □予定なし ■自社の事業とは無関係 ■無回答



■現行計画策定時

## 地域における環境保全活動との関わりについて

○地域における環境保全活動との関わりについて、従業員の自主的活動を支援する制度を整備した事業所の割合が増えています。



## 環境保全につながる取り組みの検討

○「第2次鳥栖市環境基本計画（改訂版）」策定に向け、事業活動を含む市域全体の環境保全につながる取組を検討するにあたって、どのような取組があれば、利用しやすいか聞いたところ、ごみ減量・リサイクルの情報提供（ウェブサイト）が最も支持がありました。次点で、環境マネジメントシステムの情報提供（ウェブサイト）や省エネ・CO2削減の情報提供（ウェブサイト）が挙げられました。

